

令和7年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「部活動の盛んな進学校」として、高いレベルでの「文武両立を実践できる生徒」を育成する。</p> <p>「当たり前のことが当たり前に見える」を基本とする生徒指導を通じて、「規範意識の高い生徒」を育成する。</p> <p>学校生活のあらゆる場面で、自己の目標に粘り強く向き合う姿勢を養うことで、「忍耐と努力を自らに課せる、自律した生徒」を育成する。</p> <p>持続可能な社会に向けて、地域と結びついた安全・安心な学校を築き、「自他共に危機管理意識の高い生徒」を育成する。</p>	<p>生徒は基本的な学習習慣に基づき、自律的に行動することができた。学校行事においては、工夫・改善を進め、行事に対する生徒の満足度を高めることができた。目的や育成すべき力をより意識して、主体的・創造的に物事に取り組み、他者と協働して行動できる力の更なる向上を図ることが課題となる。</p> <p>また、基本的生活習慣の確立、自己や他者の安全・安心の確保をより高い水準で実現できるよう働きかけることが課題となる。</p> <p>学校における学習環境の確保については良好な状況にあり、学習活動の維持・向上に対してよい影響を与えている。学習や進路に関する生徒の目標実現に向けて、学習指導や情報提供について一層の充実を図ることが課題となる。</p> <p>また、生徒に高い目標を持たせ、その進路実現に向けて粘り強く取り組む学習集団を形成していくことが課題となる。</p> <p>高い部活動加入率を維持しており、全国大会出場をはじめとして、それぞれの部において活動目標に沿った実績を残すことができた。</p> <p>部活動全体の活性化を図りつつ生徒が学習と部活動を両立できる時間の確保に努め、計画的で効率的・効果的な指導方法の研究及び環境の改善を一層進めることが課題となる。</p>	<p>「もう一歩先」を意識した取組の推進</p> <p>学習活動、学校行事、部活動等の教育活動全体を通じて「規範意識の高い生徒」を育成し、本校での高校生活で得られる充実した体験機会の創出に取り組む。</p> <p>基本的生活習慣や規律ある学校生活を確立させ、自他の尊重や安全・安心、自主性や主体性及び協働の喜びを養う生徒指導を行う。</p> <p>学習内容の確実な定着とともに高い目標の実現に必要な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力を育成する学習指導を行う。</p> <p>社会との関連を重視して自らの在り方生き方を展望し、将来の夢や志を育みながら希望進路の実現に向けたキャリア教育を行う。</p> <p>「部活動に係る活動方針」等を踏まえ部活動の充実・向上を図り、高いレベルでの「学習と部活動の両立」を推進する。</p> <p>教育活動や業務に関する知見を踏まえ、健康で安全に過ごすことができる環境を構築し、安心して過ごせる学校の実現を図る。</p> <p>広報活動を充実させ、本校における活動についてホームページや説明会等を通じて積極的に発信する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
組織・運営	組織的な学校運営の推進	各種会議において、重点とする目標や指導の在り方などについて、教職員の共通理解を図り、組織的に取組を進める。	A	B	B	教育活動の充実に向けた取組を計画的に進め、生徒の学習意欲や学校生活への肯定的な意識を高めることができた。 一方で、評価アンケートの改善活用については、さらに工夫していきたい。
	安全・安心な学習環境の構築	研修会を通して教職員の危機管理・サービスに関する意識を高める。	A	B		
	魅力ある学校づくりの推進	生徒が安心して学校に通い、魅力ある場となるように教育活動の更新と充実を図る。	B	B		
教育課程	学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の推進	生徒の学習状況を把握し、「もう一歩先」を意識した教育課程について検討を進める。	A	B	B	令和9年度入学生に向けた教育課程について着実に準備を進めている。
		関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学びの機会を設定する。	B			
学習指導	学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成	全教職員が年1回以上の研究・公開授業を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。	B	B	B	教育活動全体におけるICT機器の活用は定着している。生成AIの活用を含め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて検証を進めていく。
		「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて授業におけるICT機器の利活用を進める。	B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	時間を守る、身だしなみを整える、笑顔でさわやかな挨拶ができるといったことを大切にされた指導を行う。	A	B	B	本校の特色である落ち着いたさわやかな校内環境は維持されており、生徒の規範意識の向上を通じて落ち着いた学習環境を保つことができている。社会の変化に対応しつつ、西城陽らしさを大切にしながら、引き続き規範意識・人権意識の確立に向けた取組を進めていく。
	規範意識の確立と交通安全指導の充実	校内における学習環境を整え、生徒が主体的に校則やマナーを守り規範意識を高められるように働きかける。命の尊さを伝え、社会規範・交通ルールへの遵守、情報機器やSNS等の適切な使用について指導を行う。	B	B		
	道徳心の育成と人権意識の確立	教育活動全体を通じて周囲への心遣い、思いやりの心、自己と他者を尊重する精神を培い、人権尊重を日常生活の習慣として身に付けて実践できるよう働きかける。	B	B		
進路指導	キャリア教育の充実	卒業後の進路の更なる「もう一歩先」にある人生について考えさせ、働くことの意義、職業観や勤労観を身に付けて主体的に自らの将来を切り拓く能力や態度を育成する。	B	B	B	個に応じた進路指導を進め、生徒が主体的に進路実現できるよう取り組んできた。多様化する進路希望に対応するため、生徒・保護者への進路情報提供をさらに充実させる。
	進路選択の意欲を高める指導の充実	在り方や生き方に係る指導を基盤にして、学年部と連携して生徒の希望進路に応じたきめ細かな指導を行う。	B	B		

広報活動	本校の魅力についての積極的な発信	ホームページを週1回更新し、教育活動について情報発信を行うとともに学校公開・説明会における内容や資料を充実させる。	B	B	B	本校の特色を適切に伝えるための情報発信について一層の改善を進める。
健康・環境美化教育	健康・安全上の自己管理の啓発	食や性についての知識を身に付けさせ、適切な意思決定・行動選択ができるようにするなど生徒自身が健康の維持増進や安全について自己管理できるよう促す。	B	B	B	「気になる生徒」の情報を教職員間で共有し、関係機関とも連携しながら多様な生徒への支援を進めている。また、高校生を取り巻く健康・安全上の課題にも計画的に対応し、校内美化についても日々の取り組みにより良好な環境を維持している。
	支援を必要とする生徒への組織的対応の充実	日常の生徒観察を重視し、「気になる生徒」の情報を学年部・保健部及び教科担当者で共有し、教育相談会議との連携を図り、生徒の変化に対応して早期に支援する。	A	A		
	校内美化意識の確立と校内環境の維持	日々の清掃活動や月例大掃除を中心とした清掃指導を通じて、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作り出す意識を育む。	A	B		
図書館利用	読書活動の推進と図書館利用の促進	図書委員会活動の活性化を図り、読書活動を推進するとともに、多様なニーズに応えられる図書館として機能の充実を図る。	A	B	B	図書委員を中心とした活動を計画的に行い、図書館の活性化を進めることができた。
特別活動	主体的な取組の推進	生徒会活動に適切に助言を行い、学校行事において生徒が主体的、積極的に活動できるよう指導する。	B	B	B	学校行事では、生徒会を中心に生徒の主体的な活動が定着している。部活動の活動時間については、月間計画に基づく管理を進め、適切な運営体制の定着が図られた。
	学習と部活動の両立に向けた取組の推進	部活動ごとの活動目標と活動時間のバランスに留意し、学習と部活動の両立を目指した取組を進める。	B	B		
教育環境の整備	学校施設・設備等の充実	校内の安全点検を定期的実施して安全・安心な教育環境を構築するとともに生徒にとって魅力ある学校となるよう整備を進める。	A	B	B	施設・設備について更新を図ることができ、生徒の安心・安全と活動の充実に資する整備を着実に進めることができた。
	就・修学支援の充実	各種支援制度について、コミュニケーションツール等を活用して生徒・保護者等に対して丁寧な案内を行う。	A	B		

(評価の基準 A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった)

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における学習環境の確保については、引き続き良好な状態が維持されており、生徒の規範意識の醸成や学習活動の継続・向上に関して良い影響を与えているものと考えられる。 ・生徒がより高い目標を設定し達成できるよう、教育活動の充実を計画的かつ着実に進めることが求められる。 ・進路実績については一定の成果が認められる一方、地域で過ごす生徒の様子からは、これまでの西城陽高校らしさが薄れつつ面も見受けられる。社会環境の変化による影響も考えられるが、今後は生徒一人ひとりの内面にも寄り添った指導が、さらに進むことを期待したい。
<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に基づく資質、能力の育成を一層確実に進めるため、「個別最適な学び」と協働的な学び」のさらなる充実を図る。 ・ICT活用の効果を適切に見極めつつ、生徒が主体的に学習へ取り組む姿勢を育成するため、思考力、判断力、表現力を高める学習指導の改善、工夫を進める。 ・学習活動、学校行事、部活動等の教育活動全体を通じ、生徒の規範意識の向上を計画的に促すとともに、生徒が高校生活の中で充実した経験を積めるよう、体験機会の拡充に取り組む。 ・生徒一人ひとりの成長段階やニーズに寄り添えるよう、個別支援の充実を進め、学習面、生活面とも、きめ細やかなサポートを行う体制の充実を図る。